



静岡 陸協 会報

創刊号 (2006年3月26日発行)
静岡陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠1-1-1
新静岡センター6F
TEL・FAX 054-253-9801

発刊のことば



静岡陸上競技協会 会長

齊藤斗志二

このたび、静岡陸上競技協会が広報紙の発刊をするよう理事会において決定され、第一号が発刊されますことは、一九四六年創立以来の画期的新事業であります。それだけに誠に嬉しく双手を挙げて賛成申し上げる次第であります。

広報には、部内周知報的な分野と、部外周知報的な分野とに分別できると思えます。部内報は関係者には身近で読めますが、部外報はよほど魅力的でないと思われ、肩箱直行となりかねません。ぜひとも、

新事業として第一号を発刊する以上はこれを永続させる事を第一にお考えいただきたく思います。

部内報的編集で、各専門委員会・事務局よりの発信、各支部、市・町の組織、団体の活動とか人物紹介等身近な内容も掲載していただければ良かろうと思えます。

県の体育指導委員会の機関紙は、「富士にはぐくむ」を一九六〇年（昭和三十五年）以来今日まで続けられています。

私は、協会各専門部が協力しあい「陸上王国静岡」を紙面で飾り、更に毎号発刊を待たれるような態勢が早く出来上がることを希望いたします。

広報委員会の編集関係者に対しまして、そのご労苦を感謝申し上げます。よろしくお願いいたします。



静岡陸協会報発刊にあたって



静岡陸上競技協会 理事長

亀山敏郎

念願の静岡陸協会報を発刊できますことは、大変嬉しいことです。静岡陸協では、十年ごとに、「富士に競う」を発刊して参りましたが、会員の方々や、小中高

校生に、その年の陸上競技のいろいろな情報を知ってもらうことは、おおいに意義のあることと考えておりました。昨年の各大会の成績や優秀な選手の活躍等を知っていただくことや、スポーツ少年団情報や指導者講習会についてのお知らせなど、できれば年二〜三回ぐらい発刊できるとよいと思っております。委員会や中体連、高体連からも編集委員をだしてもらい、よりよい会報になることを望んでおります。インターネットホームページの時代ですが、会報として残しておくことは必要で、静岡陸協の現状や、改善すべきことに繋がると思います。県陸協では、昨年より指導者の養成と普及の少年団・クラブの育成をかけた、「裾野が広がらなければ山は高くなる」と

してきました。この方針にそって短距離の指導者講習会に百六十人の指導者が集まり草薙で講習会が開かれ、クラブも静岡市の「葵」クラブの誕生をみております。また個々のグループで、練習会や指導会が開かれております。会報もその一環として、広報委員会のご努力で、第一号の発行に漕ぎ着けました。

先日行いました県陸協六十周年記念式典および「富士に競うIV」の発行とともに、関係の委員の方々に敬意と感謝を申し上げます。

東部支部の紹介

東部支部 理事長 勝又瑛逸

静岡県陸上競技協会が創立六十周年を迎えることとなり、三月に記念式典を挙行し、記念誌(会報)を発刊することは、未だまで記録として残す意味で誠に意義深いものがあり心からお喜び申し上げます。

さて、わが静岡陸上競技協会東部支部も、昨十七年に、八期十六年の長い間県陸協の理事長を務められた深澤通之助氏を新会長に迎え、また理事長も、松本敬治氏の勇退で勝又が受け継ぎ、事実上は四月から活動を開始しました。

東部には愛鷹、富士、裾野、御殿場の四つの何れも二種全天候公認競技場があり大変恵まれた環境にあります。過去に

競技場が無く高校の大会を隣の神奈川県の小田原城山競技場を借用して行った事を思えば夢のような環境になりました。公認登録審判員の数も三百人を超えています。

東部支部は、このような恵まれた施設と審判員で主催する大会は四月に春期記録会と、東部選手権兼国体一次予選、七月に東部陸上カーニバルの三大会です。その他多くの大会を主管しますが、今年

度主管する代表的なものは、五月十四日に、全国から二千人以上の参加者がある富士裾野高原マラソン、八月六日には、テレビ中継で多くの方がご存知の、秩父宮記念富士登山駅伝は、距離四六・九七km、標高差三一九九mを十一区六名で、御殿場競技場から霊峰富士の頂上までの往復の過酷なレースです。同じく八月二十日は、富士山子供の日での、クロスカントリー大会、翌年二月十一日には、県内外から百五十チーム以上が参加する白糸の滝往復の富士宮駅伝競走、三月の田子の浦マラソンなどです。

今年から愛鷹競技場は、指定管理者制度の導入で、今までと同様に利用出来るかどうか心配な上に、オールウェザーの張替と、写真判定機、電光掲示などのシステムが一新されるので、シーズン開幕迄に講習会などを開き、早くこのシステムに多くの方が習熟して戴きたい。そのた

めには審判員の皆様の絶大なる協力を得て、前記の様な大会を間違ひなく消化していかなければならないと思っています。そして、この努力がやがて、国内はもとより世界に通用する選手の養成に繋がる事と確信します。

中部支部の歩みと現状

中部支部 理事長 大塩正則

（静岡岡県体育協会の体育史編集委員会より各競技団体に「創立までの歩み」ができるだけ克明に調べるようにという指示があり、花崎理事長が東部、中部、西部の先輩を静岡のホテル美松にお迎え頂きいろいろ話を伺った。

創立は、規約にあるように昭和二十一年三月三十一日で、当初の名称は「静岡県陸上競技協会」であった。（伊藤英一参与の持つバッチ）創立直後六月三日には富士中（富士高校）で再建第一回の県下大会が開催されていた。

戦前の県体育協会は管制であったのを民間に移管するため各競技団体が急いだのである。（県体協再建Ⅱ昭和二十一年四月二十七日）再建第一弾に昭和二十二年に静岡県オリピックを開催する構想があった。この案に日本体育協会よりオリピックの名称は使用不可の通達で「静岡県スポーツ祭」となり陸上競技が

リーダー的の役割を果たしその中核は中部の先輩で入場券を売る等尽力しこれを成功に導いたと先輩は語られた。

中部支部の規約の制定は、昭和二十四年四月一日である。この頃の全県的リーダーは中部在住の方々に再建事業第一で活動していたのである。

昭和二十二年秋には旧制中等学校、旧制高女で代表選手を出し、東部、中部、西部の三部対抗競技会等を開き各支部の「まとめり」を促進していたのである。（後に中学生は県下大会が制限されていたので三部対抗を行う。）

中部支部は昭和五十年四月一日規約改正を行い、庵原支部、清水地区、静岡地区、焼津・大井川地区、藤枝・岡部地区、島田地区、榛原地区に区分し理事等の数も決め現在も継続して開催されている。

昭和六十年二月十六日杉山竹次郎会長が辞任され静岡朝日テレビの中須社長が就任し、社内に事務室の提供があり、現在の中部の活動の基盤となったのである。（現在の新静岡センター六階）現行主な主管事業は、駿府マラソン、日本平マラソン、焼津マラソンでその委託事業費で協会財源が確保されている。

主管事業で伊藤理事長時代に、宮崎作次焼津市体育協会長より「志太・榛原陸上競技大会」の開催依頼があり、昭和六十年十一月三日に第一回が開催され現在

も焼津・藤枝・島田の関係者が持ち回りで大会を継続している。

ここに特筆大書しておくことは、亀山理事長が静岡国体に備え平成三年に始められた「中部小・中学生陸上競技選手権大会」を静岡朝日テレビとともに開催したことである。更に静岡新聞と主催した宮模型の絶大な援助で開催されている「小・中学生種目選手権大会」である。

この大会は、朝来て参加の申込をし、その場で競技日程を組んで行うという画期的なアイデアが賛同され、東部・西部よりの参加が多数あり、この中から有名県代表選手が輩出している。

現行規約等は、市町村合併に伴い改正しなければならぬが、まだ未解決の町もある。今少し時間をと考えている。

中部支部の公認審判員は、S級六十八名、A級六十六名、B級九十九名、学生七十八名で三百十一名でスクラムを組み諸活動に精励している。

競技力向上面でも毎年全国小学生大会や全日中、インターハイ、国体に優秀な成績をあげている者も多いのは普段の地味な支部活動の賜である。

先輩で静岡商業や清水東で教鞭をとっていた風間実先生も戦後再建の功労者であるが、先生は常に「競技と共に」を信条にしていたという。（昭和二十一年十月二十日大阪の戦後第一回のマラソンで九

位三時間六分一秒)

私はこの信条を借り中部支部は「陸上競技と共に」を合い言葉にし県陸上競技協会の諸事業に貢献したいと考えている。

西部支部より

西部支部 理事長 和田隆保

ここ数年来の暖冬と異なり、今年は厳しい冬が続いていますが、全国各地では国際大会から町村の大会まで大小さまざまな駅伝、ロードレース大会が盛んに開催されています。西部支部においても第五十三回目になる「西部ロードレース大会」、五十九回目をかぞえる「西部駅伝競走大会」を昨年より場所をエコパ及びその周辺道路に移して主催しており、また中日浜名湖一周駅伝大会をはじめと

数々の主管大会を実施しています。さらに昨年からは「浜松シティマラソン」が加わりました。(主催浜松市・浜松市体育協会 ハーフマラソン、十km、五km、三km)これは、四ツ池公園陸上競技場を発着とし、自衛隊浜松基地周辺道路を使用するものです。第一回大会には約五千人の参加者が集まり、盛大に行われました。また今年も第一回大会を上まわる七千人弱の申し込みがあると聞いております。市町村合併、政令指定都市への移行と新浜松市の発展とともにシティマラソンも

規模を拡大していくと思われませんが、コース、運営面その他諸々の改善しなくてはいけない問題も山積しています。一つ一つクリアして、県及び西部地区の長距離発展に貢献できる大会に育っていつてもらいたいものです。一方、既存の伝統ある主催駅伝、ロードレース大会への参加者が減少しているという淋しい現状もあり、今後これらをどう立て直すかという大きな課題を抱えております。

これらの大会の運営、審判には多くの会員の皆様のご協力を頂いております。大会の増加とともに一層のご負担をおかけすると思いますが、静岡陸上の発展のため、また競技者が十分に力を発揮できますよう円滑で安全な運営、正確な審判をお願い申し上げます。

県陸協略史(1)

静岡陸協の足跡

参与 伊藤英一

橋本広報委員長よりのご依頼でしたので雑文ですが以後県陸上略史を続けまうのでご感想をお願いします。

☆陸上事始め

日本の陸上事始めは、一八七四年(明治7)海軍兵学校の戦闘遊戯会である。英語はAthletic sportである。静岡県では、一八八七年(明治20)静岡師範・静岡

中学が十人一組の競走を十九回行い司令(現在総務)判者(現在審判員)司鐸者(現在スターター)を置き文部省より視学官が視察するほど先進県であった。秋には幅跳、高跳、長距離走も行い決勝(特別長距離走)もあった。賞品は県より靴下、書籍であった。また一八八九年(明治22)小学生が下島海岸にて高跳を運動会で行う等陸上競技的種目が芽生えた。

第一回県下大会は一九二一年(大10)五月一日現在の静岡大学付属中学グラウンドで開催された。女子陸上の大会は一九二四年(大13)二月二十四日現在静岡菜区末広中(当時県立・今の城北高校)で開催された。

☆都道府県陸上協会の創立

- 横綱||東 青森(T9) 西 大阪(T11)
- 大関||東 奈良(T13) 西 和歌山(S3)
- 関脇||東 山梨(S4) 西 岩手(S4)
- 小結||東 島根(S6) 西 広島(S7)
- 前頭||東 兵庫(S8) 西 北摂(S8)
- 同||東 京都(S8) 西 愛知(S9)
- 同||東 岡山(S9) 西 石川(S9)
- 同||東 徳島(S10) 西 東京(S10)
- 同||東 茨城(S10) 西 栃木(S11)
- 同||東 富山(S11) 西 徳島(S11)
- 同||東 三重(S20) 西 山口(S21)
- 同||東 埼玉(S21) 西 佐賀(S21)
- 同||東 岐阜(S21) 西 静岡(S21)
- 同||東 長野(S21) 西 熊本(S21)

- 同||東 秋田(S21) 西 群馬(S21)
- 同||東 福島(S21) 西 福岡(S21)
- 同||東 滋賀(S21) 西 新潟(S21)
- 同||東 鹿島(S21) 西 鳥取(S21)
- 同||東 香川(S21) 西 高知(S21)
- 同||東 宮城(S21) 西 福井(S21)
- 同||東 大分(S22) 西 長崎(S22)
- 同||東 愛媛(S22) 西 千葉(S22)
- 同||東 山形(S23) 西 宮崎(S24)
- 同||東 沖縄(S25)

(年次が同じでも月日の順で記載) 東海陸上競技協会は、一九三四年(昭九・四・八)創立で愛知県はこの年を創立としている。現在の四県に滋賀県・山梨県が加盟していた。日本陸上競技連盟は一九三六年(昭十一・一)県陸上組織の指導があった。本県では、一九二八年(昭三・十・二十四)県体育協会が設立され、内部組織に男子陸上競技部・女子陸上競技部を置いたので陸上競技協会名は使用せず全ての大会は県体育協会名で行っていた。したがって創立は昭和二十一年三月三十一日として県体育史に記載されているのである。(以下次号)

県陸協主催の指導者講習会開催

十七年十二月十一日(日)草薙競技場において短距離指導者講習会が開催された。強化部・普及部の合同で、福島大学の川

本和久先生（陸連シニア強化部女子短距離部長）を講師にむかえ、池田久美子（スキ・走幅跳・ハードル）さんのアシスタントをくわえて午前中、短距離の指導についての講演、スライドを使った指導があり、午後は実技指導と充実した講習会が開かれ、百六十名をこえるジュニアや高校の指導者が集まり盛況であった。ポーランドのマックコーチが草薙で短距離の理論的な指導者講習を行って以来、ひさしぶりの本格的な講習とあって、参加者は、熱心に最後まで指導に聞き入り『非常にこれからの指導に役に立つ』と好評であった。

協会は、来年もひきつづき指導者講習会を計画しふたたび『陸上静岡』をめざし活動を計画している。

高体連総括

高体連 委員長 綾部信明

本年度より、高体連委員長の任を前委員長神山心一先生から引き継ぎ、一年目をやっとな終えることができました。その一年目を振り返ってみます。

高校総体全国大会においては、女子の活躍が目立ちました。特に浜松西高校が、女子総合二位という輝かしい成績を残したのは素晴らしいことでした。中村宝子さんの一〇〇m二位、二〇〇m三位、飯

尾絢さんの四〇〇m三位、リレーでは四〇〇mR四位、一六〇〇mR三位。しかも中村、飯尾の両名は、まだ二年生のため、次の大阪総体では大いに活躍が期待されます。また、静岡市立の活躍も目立ち、長倉由佳（三年）さんが、二〇〇mで一位と同記録ながら惜しくも二位に、一六〇〇mRでは浜松西に次いで三位に入賞したのも立派でした。

男子においては、棒高跳で本県より五名の選手が出場し、二連覇を果たした川口直哉君（磐田南）、一年生ながら二位に入賞した笹瀬弘樹君（浜松市立）、この二人を含め四名が入賞し、全国に棒高跳のレベルの高さを知らしめました。

都道府県別得点では、男子十二位、女子三位と今後の男子の奮起が望まれる大会でした。

東海新人大会での本県の活躍は、やはり女子の活躍が目覚ましく、一位から三位までの静岡県勢の占有率は四五%と昨年の三三%と比べると驚異的です。男子に関しては昨年よりやや低調でした。来年度は、今年以上に女子の活躍が楽しみになってきましたが、男子の状況が心配されます。

最後に、高校駅伝では、町村合併により、御前崎市と菊川市の二市の協力の下開催されましたが、合併により、今まで協力していただいていた資金面での援助

がなくなつたため、この地での最後の大会になるかもしれないという状況で行われました。しかし、様々な方からのご意見や、努力の結果、来年度以降の運営費に目処が付いたため、今後も浜岡の地にてお願いする方向になりました。関係の方々にご迷惑、ご心配をお掛けいたしました。

このような状況の中県大会では、男子は二年ぶりに藤枝明誠が、女子は三島北が初優勝し都大路に挑戦しました。藤枝明誠は二十四位でしたが、全区間二年生が走り、来年に望みを託し、三島北は三十一位という残念な結果になりましたが、藤枝明誠同様一、二年生の若いチームのため、来年が大いに期待されます。直ぐに新しいシーズンの開幕です。意気揚々と大会に臨んでくる高校生アスリート達のため、今後もご協力とご支援のほどよろしく願います。

高体連定通部より

高体連定通部 委員長 浜田俊則

本年度定通部では全国大会に五十七名を送り出した。八月十二日～十四日に国立競技場で開催され、全国からは一〇八四名の参加であった。主な成績は女子三〇〇〇mにおいて静岡中央の堀池美早さんが見事優勝を果たした。また、女子走

高跳では浜松北の伊藤舞さんが三位となり、女子では六種目で入賞を果たすなど総合で六位、フィールドも六位と健闘した。しかし、男子での入賞は一種目にとどまり、男女総合も十五位と年々順位を下げている状況となっている。あと一歩という種目もあり、次回以降の活躍に期待したい。

県大会の参加状況は、全国大会の予選となる春季大会が百三十一名、新人戦に相当する秋季大会では百十二名と、どちらの大会も昨年よりも大幅に増加している。一月に行われた全国代表者会議において来年度より大会の開催規模の縮小が決定されている。当初は種目減も検討されたが、辛うじて現行通りの種目数で開催されることとなった。補助金の大幅な削減によるものが理由であるが、全国定通制大会の開催自体が困難な状況となっている競技もあるという。選手にとつて国立競技場で競技できることは貴重な体験となるものであり大会の存続を望む声も多いが、どこまで出来るか分からないというのが現状のようである。

最後に、大会運営や審判をお願いし、多大な協力を頂いている東部陸協・中部高体連他、関係各位にはこの場を借りて御礼を申し上げます。今後の大会にも引き続き協力を頂けるようお願いしたいと思います。

各委員会より

総務委員会活動状況

総務委員会 委員長 仁科仁郎

総務委員会の活動状況を報告致します。

平成十七年一月二十二日、平成十七年度静岡陸上競技協会要覧作成会議を草薙陸上競技場会議室で開催。総務委員会担当部所、告知事項、受賞者一覧、静岡陸上競技協会役員名簿、年間プログラム広告等の作成を行い、文化洞に六七〇冊注文、三月上旬から販売。担当、鳥居・仁科。五月上旬完売。平成十七年度静岡陸上競技協会登記・登録受付。担当、仁科。四月下旬、第一回目日本陸上競技連盟に登記・登録用紙を作成し発送する。八月下旬、第二回目登記・登録用紙を作成し発送する。十二月中旬、第三回目登記・登録用紙を作成し発送する。

静岡陸上競技協会顕彰委員会、第一回目六月五日草薙陸上競技場で開催。議題は静岡陸上競技協会顕彰規約に基づく候補者の選出、候補者の名簿の作成。

平成十七年六月十一日総務委員会の開催、特別功労者、永年勤続功労者、表彰文を総務員全員で作成。

表彰A、特別功労者、永年勤続功労者、

功労者、日本記録樹立者、日本陸上競技連盟S級審判委嘱者の表彰状と記念品の作成と調達、新聞発表。七月十日静岡陸上競技選手権で表彰式の開催。

表彰B、表彰C、優秀指導者、審判員精励者、審判員精勤者、還暦祝い、古希祝い、喜寿祝いの表彰状と記念品の作成と調達、新聞発表。七月十日各支部に配布。第二回目十月三十一日草薙野球場会議室で開催。日本陸連各栄章、静岡新聞・静岡放送スポーツ賞、県体育協会各栄章の候補者の選出と書類の作成と送付。静岡新聞・静岡放送スポーツ賞の候補者書類、十一月六日送付。

日本陸連各栄章の候補者の書類、平成十八年一月十一日送付。県体育協会各栄章の候補者の書類、平成十八年二月月上旬送付。

平成十八年三月十九日、平成十八年静岡陸上競技協会総会の開催の連絡と書類の作成。

静岡陸上競技協会六十周年記念式典の祝賀会の開催と記念誌の準備。

大まかに平成十七年度の総務委員会の活動状況を書かせていただきました。特に三月、四月の登記・登録の時期は多忙です。また、顕彰委員会の仕事は、神経を使います。



審判委員長となつて

審判委員会 委員長 草野康二

日頃から各競技会の審判活動にご協力いただき有難うございます。平成十七年度から審判委員長を仰せつかりました。静岡陸協の体制が深澤前理事長から亀山現理事長に移行される際にこの話がありました。静岡陸協審判委員会には諸先輩方がいらつしやいましたが、その諸先輩方の吹捧をいただき、お引き受けすることにいたしました。

さて、現在の静岡陸協の審判員体制を築かれたのは前審判委員長の中村修先生です。私が静岡陸協に属したのが一九八六年（昭和六十一年）からですが、その時はすでに現体制と同じシステムで審判委員会の業務が運営されておりました。中村先生は、ご自身のパーソナルコンピュータ及びその周辺機器を駆使され、審判員の方々のデータをもとに効率のよい審判員配置を実践されていらつしやいました。こうした環境の元で西部の山下真里先生、市野先生、中部の小林氏、東部の田村先生、井出先生、黒田宏氏、眞下氏の諸先輩から競技会の在り方、審判員の配置、委嘱状の出し方、挨拶の仕方：等々、多くのことを学びました。

「競技者あつての競技会であり、競技者あつての審判員であること。」特に私は高

校で陸上部員を指導しておりますのでこのご教示は指導者の立場と審判員の立場との狭間をうめてくれました。（但し、県審判委員長に就任してからは少し時間が足りませんが）

こうした経緯をへて審判委員長をお受けした一年間でありましたが、限られた予算での大会運営の中での審判委嘱において、審判員数の過不足があつたり、欠席の連絡を受けることができなかったり：等々、静岡陸上競技協会の主要な大会の運営において反省することが多々あり皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

最後に六十周年を迎えた静岡陸上競技協会の審判委員会の責任者としてその任を全うしていきたいと存じます。審判員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成十八年度静岡陸上競技協会行事予定

競技委員会 委員長 加藤 崧

平成十八年度の県陸協・他の行事予定が二月一日決定しましたのでお知らせ致します。

月 日	競技会	会場
平成18年4月		
2(日)	日本平桜マラソン	草薙
8(土)	小中学生陸上競技	

23(日)	△第35回静岡リレー	兼国体予選	草薙
29(祝・土)	△県スポレク予選	草薙	
5月			
3(祝・水)	△★第22回静岡国際陸上	草薙	
20(土)	静岡県すこやか長寿祭	草薙	
20(土)	△県長距離記録会	(第1回) エコパ	
26(金)~28(日)	△★県高校総体・兼国体予選	エコパ	
6月			
3(土)	△県長距離記録会	(第2回) エコパ	
17(土)	△県定通制高校陸上	富士	
18(日)	△第22回小学生交流大会	草薙	
24(土)	△国体成年・少年予選会	(第1回) 草薙	
25(日)	小中学生陸上競技	種目別 西ヶ谷	
7月			
1(土)	△県長距離記録会	(第3回) 草薙	
8(土)	△第21回中学選抜大会	国体予選 草薙	
15(土)~16(日)	△★第61回県選手権		
17(祝・月)	△国体成年・少年予選会	(第2回) 浜松	
22(土)~23(日)	△★第52回県中学通信陸上	草薙	
8月			
6(日)	△第18回県ジュニア	クラブ選手権 草薙	
6(日)	第31回富士登山駅伝大会	御殿場	
20(日)	第6回富士山クロス	カントリー大会 子供の国	
26(土)	△第26回県ジュニア	オリンピック予選 草薙	
9月			
17(日)	△県障害者スポーツ大会	草薙	
18(祝・月)	△県長距離記録会	(第4回) 草薙	
23(祝・土)	国体結団式	草薙	
24(日)	△県マスターズ陸上選手権	愛鷹	
24(日)	県小中学生種目別陸上	草薙	
30(土)	△★第39回県高校新人陸上	草薙	
10月			
1(日)	△★第39回県高校新人陸上	草薙	
8(日)	△県中学新人陸上	草薙	
14(土)	△県長距離記録会	(第5回) エコパ	
15(日)	△第35回小学生陸上選手権	草薙	
21(土)~22(日)	△★東海高校新人陸上大会	草薙	
29(日)	第19回ねりんピック	マラソン大会 大井川	
11月			
3(祝・金)	△第25回浜松中日	カーニバル 浜松	
5(日)	小中学生陸上競技	種目別 草薙	
5(日)	県高校駅伝	男子第57回・女子第19回 浜岡	
12(日)	△県民スポーツ祭	浜松	
18(土)	県中学駅伝競走大会	エコパ	
12月			
2(土)	第7回市町村対抗駅伝	静岡・清水	
9(土)	△県長距離記録会	(第6回) 草薙	
10(日)	県陸上指導者講習会	草薙	
平成19年2月			
18(日)	第31回中日浜名湖	一周駅伝 館山寺	
3月			
4(日)	△第32回静岡駿府マラソン	静岡	

強い静岡を目標に

強化委員会 委員長 新聞一夫

本年度役員改選により新しい強化委員会が発足し、強い静岡を目標に、三月に各高校から選抜された選手を中心に合宿をおこなったのかわりに、各種大会の視察、秋季国体の選手選考、合宿をおこないました。そして、国体は予想された通り思うように得点が伸びず非常に苦しい戦いが続きました。その中で色々な課題が見つかりこれからの活動に生かしていきたいと思えます。また長距離スタッフにおいては長距離記録会の企画、運営と強化委員会が一丸となって色々な行事に取り組みました。年が明けてからは男女の都道府県対抗駅伝がおこなわれ、選手の頑張りにより戦前の予想に反してチームの目標が達成でき、十八年はよいスタートが切れたと思えます。この勢いを春からのトラックシーズンに向けて頑張っていきたいと思えます。ぜひ皆様のご協力をお願いします。

国民体育大会と男女都道府県駅伝の結果は次の通りです。

◎第六十回国民体育大会 (岡山桃太郎陸上競技場)

天皇杯 20位 53点 皇后杯 14位 38点 入賞者

男子少年A 110MH



玉井悠斗(加藤学園高) 5位 14秒70
棒高跳

川口直哉(磐田南高) 3位 4M80

少年共通 3000M W

小宮山 卓(沼津西高) 8位

男子少年B 3000M 22分02秒37

井口恵太(浜松日体高) 5位

女子成年 400M 8分29秒22

櫻井里佳(福岡大) 4位 54秒89

走高跳

松下小織(東京学芸大) 6位 1M72

砲丸投

美濃部貴衣(筑波大) 4位 14M30

ハーフマラソン

星野好美(eA静岡) 7位 1時間13分53秒

女子少年A 400M

飯尾 絢(浜松西高) 3位 55秒43

女子少年B 200M

伴野里緒(浜松西部中) 5位 25秒59

100MH

鈴木章子(東海大翔洋高) 8位 14秒42

成年少年共通女子 400M R

金子紗織 長倉由佳 7位 46秒47

伴野里緒 中村宝子 7位 46秒47

◎第二十四回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会(京都)

22位 2時間21分52秒

1区 勝又美咲(日大)

2区 中村仁美(浜松日体高)

3区 田代 涼(富士岡中)

4区 宮崎 恵(常葉菊川高)

5区 谷 奈美(沼津西高)

6区 林 奈々子(富士東高)

7区 橋本ゆか(常葉菊川高)

8区 柴田理奈(新居中)

10区 小田依子(ユタカ技研)

本年度も高校生中心のチーム編成で、大変厳しい戦いが強いられると予感しました。しかし、選手達は静岡県の代表としての誇りを持ち、自分達の力をきちんと出す事ができ、目標順位である二十二位をクリアする事ができました。順位としてはまだまだですがこれからのステップアップに良いスタートができたと感じています。この結果に満足せず、さらに上を見たいと思います。(監督 八木本雅之)

◎第十一回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会(広島)

15位 2時間24分08秒

1区 井口恵太(浜松日体高)

2区 福土優太郎(深良中)

3区 加藤俊英(ホンダ埼玉)

4区 大石港与(富士東高)

5区 近藤俊一(藤枝明誠高)

6区 岩間一輝(御殿場中)

7区 藤井 亮(滝ヶ原自衛隊)

一月二十二日に行われました第十一回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会には、皆様の多大なご協力とご声援を頂き誠に有り難うございました。お蔭さまで持ちまして第十五位という成績ではございますが、無事終了することが出来ました。特に、選手をお持ちのメインコーチの皆様には厚くお礼申し上げます。(監督 鈴木博之)



(静岡新聞社 提供)

普及委員会の活動状況

普及委員会 委員長 石野吟策

普及委員会では、小学生を中心とした陸上競技の愛好者やその指導者を対象とした活動を行っています。主に、県規模の大会運営、県外大会への派遣、練習会の計画実施、日本陸連主催の指導者中央研修会への派遣等です。

現在、普及委員会が把握し、大会へ参加しているクラブ、少年団、陸上教室、小学校、個人等の陸上チーム数は、五十チームを数えます。中でも、代表者がいて、指導者が複数いるチームは、四十五チームとなります。この現状を築いてきた各チームの指導者の方々には、深く感謝申し上げますと共に、今後の更なる発展と活躍を期待して止みません。

【普及委員会の事業内容】

〔大会派遣〕

全国小学生陸上競技交流大会

六月開催の県交流選考会での優勝者、優勝チーム全二十名と指導者を派遣いたします。

東海小学生リレー競走大会

六月開催の県選考会において入賞した九チームと指導者を派遣いたします。

全国小学生クロスカントリーリレー競走大会

県代表一チーム(男子四、女子四、計

八名)を希望したチームより選出し、派遣いたします。

〔練習会・研修会〕

小学生合同練習会

十二月、小学五・六年生の希望者を募り、短距離、跳躍、長距離、障害、投てきの各ブロックに分かれて実施し、意欲や技能を高める。指導者は、強化委員、普及委員、中体連へ依頼します。

小学生選抜練習会

八月に行われる、全国交流大会、東海リレー大会出場者による合宿を行い、県代表としての意識高揚とチームの結束を強めることを目的とし、宿泊を伴う試合参加への練習とします。

全国小学生陸上競技指導者
中央研修会への派遣

各チームの指導者に希望を募り、派遣いたします。研修報告も練習会等で行います。

以上が、活動の現状です。

静岡陸上競技協会では、今後も小学生を対象とした、陸上競技を楽しく学べるクラブ、少年団等が新設されることを望むと共に、個人でも大会参加ができることへのアピールをしてまいります。

是非、ご協力をお願い申し上げます。



陸上競技運営サポート用
ソフトウェアの開発

情報システム委員会 委員長 永田勝久

陸上競技の運営では、競技結果の発表や一覧表の作成、予選からの番組編成などの処理に手作業ではわずらわしいことが多く、その対策が望まれていたので、どのような競技場、競技会でも簡易にパソコンを使用して、作業を簡略化するためのソフトウェアを記録委員会と協力して開発した。

事前に各種目ごとの各組各レーン、試技順にどの競技者が入っているかのデータを作成する。事前作業が完了すればフィールド記録用紙作成も可能である。またパソコンの他のソフトで作成したプログラムデータを取り込むことや、これまで通り個票を使ってプログラム原稿を作成し、それを印刷会社がコンピュータ入力したものを使うこともできる。

競技が開始され記録を入力することで、記録発表原稿と番組編成案が作成できる。複数の組から決勝を行わないで順位を決めるタイムレース決勝にも対応している。

競技終了後には記録一覧表やインターネット用ファイルも作成できる。必要な機器類は、パソコンが二、三台、プリンター一台程度である。トラック記録は手入

力だけでなく、写真判定装置からデータを取り込むことも可能である。草薙ではこのソフトを利用して大型電光掲示板にその結果を表示することも試みた。浜松四ツ池、磐田、小笠山、浜岡、西ヶ谷、草薙、富士、愛鷹、御殿場の各競技場での競技会にこのソフトを使用してみたいが、今後はより多くの人に使用法を伝達したいと考えている。

陸上競技場・長距離競走路の現状

施設委員会 委員長 久保田金也

静岡県には、他の都道府県に比べ多くの公認陸上競技場と、充実した公認長距離競走路があります。

競技場は、種別に、一種が二、二種が五、三種が九、四種が一、五種が三の二十の競技場があります。この多くの競技場の検定をさせてもらいました。どの競技場も施設、用器具は充実しています。

しかし、問題点もあります。

一つは、芝生に関することです。多くの競技場が陸上競技専用ではなく、サッカーも使用する点です。具体的には、陸連とサッカー協会が決めたことですがフィールドの芝生の面積が陸上競技を行うには広すぎ、コーナーの半円部分で行うフィールド競技がやりづらい面があります。また、目土によるレベルの問題、

芝生の育成期間による芝生での練習禁止などがあります。そして、ハンマー投げの禁止等もあります。

二つめは、自治体の予算削減で、トラック面の張り替え、オーバレイができなく、走りづらいと思われる競技場もあります。

三つ目は使用時間の点です。利用者のニーズに合わないところもあるようです。問題を解決して、今以上に維持管理をし、陸上競技の発展のためにご尽力していただきたいと思えます。

長距離競走路は、フルマラソンが三、ハーフマラソンが四あります。それぞれのコースに特徴があり、大会が盛大に開催されているようですが、近年道路事情により開催が困難になっているところもあるようです。公的機関と連携を取り、ロードレースを盛んにして長距離競走路の維持管理をお願いしたいと思います。

目立った活躍と記録

記録委員会 委員長 赤堀順一

平成十七年は、例年に比べると県内選手の結果はいまひとつだったが、大きく飛躍した選手もいるので紹介したいと思います。

まず一般の部では、女子の活躍が目立った。走幅跳と一〇〇mハードルの第一人者池田久美子(スズキ)は、二種目

とも日本選手権で優勝し、走幅跳では世界選手権にも出場した。記録も東海記録を更新している。櫻井里佳(福岡大)は四〇〇mハードルで日本選手権優勝。その後更に記録を伸ばして、日本インカレでも東海新記録で優勝したり国際大会にも出場したりと、一気に日本のトップアスリートの仲間入りをした。また四〇〇mでも国体で県記録を二十一年ぶりに更新して四位に入賞した。更に松下小織、西尾千沙の東京学芸大コンビと美濃部貴衣(筑波大)の大学生も頑張った。松下は七種競技で初の五千点代(県新)を記録して国体でも走高跳で六位に入賞した。西尾も四〇〇mで県記録を更新。美濃部は国体の砲丸投で四位入賞を果たしたのをはじめ、投擲の三種目で県ランキング一位となった。男子は、やり投の村上幸史(スズキ)が日本選手権で優勝、世界選手権出場等を果たし、走幅跳の志鎌秀昭(筑波大)は、日本インカレ優勝、ユニバーシアード出場という活躍をしている。

高校では、男子が全国総体の棒高跳で川口直哉(磐田南)、笹瀬弘樹(浜松市立)が一、二位となったのが印象的である。女子は、全国総体で一六〇〇mリレー二位の浜松西、三位の静岡市立の活躍が目立った。特に浜松西は中村宝子が一〇〇mで二位、二〇〇mで三位、飯尾絢が四

〇〇mで四位に入賞。静岡市立は長倉由佳が二〇〇mで県高校記録を十五年ぶりに更新して二位に入賞した。

中学は、全日中の入賞者は何人か出ているが、福士優太郎(裾野深良中)の活躍が素晴らしい。全日中では、一五〇〇mで優勝、三〇〇〇mは三位であったが、その後のジュニアオリンピックでは、中学日本記録を更新して二位となった。

小学生は、県小学生新記録こそ出ていないものの、全国小学生交流大会では、女子の浜松陸上が優勝をしたのをはじめ、例年より多くの入賞者を出し、今後が大変楽しみである。(敬称略)

自主財源を模索して

財務部 部長 中西 基

昨年頭初、平成十七年度役員改選に際し、亀山新理事長の熱い要請を戴き、財務部長職を仰せつかりました。

協会内の組織、就中、財務部の職責の何たるかも解らず引き受けたことを後になって大きな後悔をした次第であります。改めて規約に目をやり、財務部に関しては、財務部長が総括する、を見出し、その重責を痛感致しました。

私なりに出来得る役割と課題を考察し決算書に目を通しましたところ、本会計における協会運営資金は、大会参加料と

会員会費・選手登録記録料が各々三五%を占めております。これはアマチュアスポーツ団体として、ボランティア精神から見れば理想像かも知れません。しかしながら財政の硬直化に他ならない現象であります。特に三位一体を軸にした政治・社会・経済の大改革の時点で、本会の大いなる飛躍発展を期する時、危惧の念を禁じ得ません。

要は今後の自主財源の確保であります。その為には何らかの方策がとれないか、検討した私案であります。以下列挙してみます。

一、亀山理事長も提唱しています、小学生の陸上愛好者を多く募って協会の底辺の拡大を図り選手中人口の増大を目指し、スポーツ陸上少年団との一元化を推進する。

一、陸上競技の良き時代を知る理解者の人達を募り、賛助会員制度を活用し、側面から協会のバックアップをお願いする。

一、協会独自に行える新規事業の企画立案は出来ないか。

一、静岡国際陸上大会を多目的に捉え、その充実を図るとともに財源が確保できるよう工夫する。

一、本会は地域陸協との距離を縮めるため、地域の動向を見守り、一層の連携を図る。

一、各々の項目を実施・実現するためには、財務部員の構成を配慮し、全組織の広い分野から構成メンバーとして、部会を強固に立ち上げたらどうか、提案する。

是非とも、本協会総力を結集し、静岡陸上競技協会の指針を明確にして進むべく、意気込んで参りたいと思います。

主な活動と現況

広報委員会 委員長 橋本美智夫

年度はじめ、各報道機関へ大会日程の資料提供・要覧送付からスタートします。

主要大会の中で、五月に開催された日本グランプリ戦、静岡国際陸上は海外・全国から多数のメディア(平成十七年度八十七社百一名)が取材に見え盛り上がりを見せました。また十二月の県市町村駅伝大会は、各自自治体の首長・議員・地元の皆様の熱い声援が選手にパワーを与え、毎年激走が展開されています。その様子を記者席業務に携わる我々も本部記録からの情報を取材陣に流すにも力が入ります。

次に新事業として本年度から陸協会報の編集を担当します。今回創刊号の原稿にご協力頂いた皆様には厚く御礼を申し上げます。

今後更に充実した会報にしていきたい

と考慮しており、ご意見、ご要望等を編集委員会までお寄せください。よろしくお願いたします。

六十周年記念式典祝賀会開催

本協会は昭和二十一年三月三十一日設立以来、先達々のご尽力のおかげにより、ここに六十周年を迎える事ができた。これを記念して去る三月十九日(日)葵区ホテルアソシア静岡ターミナルにおいて関係者百三十余名参加の内、盛大に記念式典・祝賀会が挙行された。

今回はこれまでの周年事業と異なり、平素、県陸協で開催している各種大会においてご支援ご協力を賜った自衛隊、県警察本部、報道五社を始めとし各種大会で共催・協賛・協力いただいた各種企業に対し、感謝の意を表することを目的に開催された。

主催者を代表し斉藤斗志二会長のあいさつ、亀山敏郎理事長よりこの十年間の県陸協の歩みの報告があり、ご来賓の日本陸連副会長・専務理事櫻井孝次氏、静岡県出納長栗原績氏より祝辞を頂戴した。その後ご来賓の紹介、県陸協名誉役員等の紹介を経て各団体、各企業にたいし斉藤会長より感謝状の贈呈を行い記念式典を終了した。
ひき続いて、会場を替えて祝賀会が盛

大に挙行された。参加者一同つぎなる七十周年に向けて県陸協のさらなる充実発展を誓い合った記念式典であった。

感謝状贈呈団体・企業

- 静岡県警察本部、第三十四普通科連隊、静岡新聞社、中日新聞東海本社、静岡放送、(株)テレビ静岡、(株)静岡朝日テレビ、大塚製薬(株)、クリヤマ(株)、スズキ(株)、(株)タミヤ、(株)ニシ・スポーツ、(有)二の岡フーズ芹沢正治、(株)NIPPONコーポレーション、日本体育施設(株)、長谷川体育施設(株)、ミズノ(株)、(株)ユタカ技研 (敬称略)

日本グランプリシリーズ第四戦

**第二十二回静岡国際陸上競技大会
兼第十五回アジア競技大会
代表選手選考競技会**

第二十二回静岡国際陸上が以下の日程にて開催される。

記

- 期日 平成十八年五月三日(水・祝日)
- 競技開始午前十時
- 会場 静岡県草薙総合運動場 陸上競技場
静岡市駿河区栗原一九一
- 種目 男子 二〇〇M、一五〇〇M、一〇〇〇〇M、四〇〇MH、走高跳、走幅跳、棒高跳 七種目

- 女子 二〇〇M、一〇〇〇〇M、四〇〇MH、走高跳、走幅跳、砲丸投、円盤投 七種目
- サブイベント

- 小・中学生男女四×一〇〇MR、中学生男子四×四〇〇MR
- 入場券 当日売り 前売り 大人 一、二〇〇円 一、〇〇〇円 中・高校生 七〇〇円 五〇〇円 小学生以下 無料 無料 前売り券発売

- 静岡新聞社 本社事業部、浜松・沼津総局
- 静岡市内 静鉄観光サービスオレンジプラザ、すみや本店

- 県内 「チケットぴあ」「ファミリーマート」「サークルK」「サンクス」

協賛広告募集のお願い

- 締切 平成十八年四月七日(金)まで
- 種類 A一四版一ページ十万円、二分の一ページ五万円、四分の一ページ三万円
- 多数の応募を期待しております。
- 連絡先 静岡陸上競技協会 静岡国際陸上事務局 松村吉郎 TEL・FAX 〇五四―二五三―九八〇―

編集後記

二〇〇五年三月、「静岡陸協会報」の話がもち上がり、各委員会・理事会等で検討しました。その結果、今回事務局の協力を得ながら発刊する事になりました。ゼロからの出発ということであり、広報・事務局が中心となり進めてまいりました。特に陸協役員・各委員会責任者の皆様にはそれぞれの立場から、現況及び専門的視点等も加えて頂き執筆をお願いしました。

今後、静岡県の陸上競技が「富士の頂上よりも高く」更なる発展と陸上界の活性化の一助になればと考えての第一号です。次号も編集委員一同、全力を上げて編集にあたりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

編集委員

- 橋本 内田
- 矢辺 朝比奈
- 藤原 亀山
- 県陸上競技協会事務局

